



新たな職員を迎えて

ものみな春のよそおいとなつてまいりましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか？花粉症もピークを迎えており、体調管理が難しい時期ですが、睡眠をしっかりとって生活を整えることで、健康に過ごせますようお願いいたします。

新年度を迎えるにあたり、シャローム横浜では中途採用者に加えて新卒3名と特定技能の資格を持つ職員5名を迎えることができました。多くの職員を採用できたこと、新卒を久しぶりに迎えられることは大きな喜びと感じています。新たな人材がこれからの働きを通して、ご利用者一人ひとりの「いのち」に触れることで、法人理念を学び、成長することを心より願っています。

一方で、日本では少子高齢化が進み、介護の現場では人手不足が大きな課題となっています。2025年に独立行政法人福祉医療機構が実施した人材確保に関する調査によると、特別養護老人ホームの約6割以上が職員

不足を感じており、平均の人員不足人数は5.5人と非常に厳しい状況にあることを示しています。また、前年度よりも不足人数が1.9人増えており、年々増加しています。この要因としては、賃金水準や労働人口の減少、施設同士の人材確保競争など、様々なことが挙げられています。

シャローム横浜でも人材確保はまさに大きな課題となっており、常に採用活動が続けています。また、職員の減少により様々な問題や課題に直面していますが、基本である法人理念に立ち返り、「一人ひとりの命の尊さ」と「弱さを抱える人に寄り添う姿勢」を中心に据えて、お互いに理解しあい、協力しながら前を向いて歩んでまいりたいと思います。

シャロームは「平和」を意味します。各地で災害や戦争が起きていることが、皆様が平和に過ごせますようお願いいたします。

施設長 高原 信夫

新しい職員のご紹介 ～4階に新たな仲間が加わりました～

このたび、インドネシアよりイチャさん、ラフマさんの2名が、4階で新人職員として入職いたしました。

お二人は、日本での介護業務に強い意欲を持ち、ご利用者お一人おひとりに寄り添った、温かく丁寧なケアの提供を目標にしながら、日々研修と業務に取り組んでおります。慣れない環境の中ではありますが、早く職場に溶け込み、安心して過ごしていただける施設づくりに貢献できるよう、誠心誠意努力してまいります。

当施設といたしましても、両名が安心して成長できるよう、職員一同で指導・支援を行ってまいります。

皆様におかれましては、温かく見守っていただきますよう、心よりお願い申し上げます。

4階副主任 ムハンマド アムリン



第 308 号

令和 8 年 3 月 15 日 発行

(毎月 1 回 15 日 発行)

責任者:施設長 高原信夫

〒241-0802

横浜市旭区上川井町 1988

社会福祉法人アドベンチスト福祉会

シャローム横浜

☎045-922-7333

編集委員 荒金・石川・石橋

[https://www.adventist-](https://www.adventist-welfare.jp/yokohama/)

[welfare.jp/yokohama/](https://www.adventist-welfare.jp/yokohama/)



特養3階に見守りカメラ設置 ～安全・安心のために～



この3月に、横浜市の助成金を活用し特養3階の共有部に見守りカメラ7台を設置いたします。

平成10年の特養開設時より、特養3階の特別介護棟にて、認知症の周辺症状がある方の受け入れを積極的に行っております。本入所52名、ショートステイ4名のご利用者が四人部屋・二人部屋・個室にてそれぞれ生活をされておられます。食事時には1か所のレストランに全員が集まります。

見守りカメラ設置の目的は、構造的な死角を無くし事故の早期発見や事故発生時に映像にて状況を検証することができ、ご家族へ状況のご説明や、事故の再発の防止・サービスの質の向上に繋げることができます。

法人事務局 課長 小林 広幸

ラーメン屋台

今年度、最後の行事食は「ラーメン屋台」でした。醤油ラーメン・点心セット（海老蒸餃子・焼売・かぼちゃ焼売）・マンゴープリンを提供させていただきました。皆さま久しぶりのラーメン屋台で喜ばれておりました。来月はお休みに、5月は「ピザ」を予定しています。

栄養課 奥村 あみ



伴走型支援ケアとは？

第216回 チャプレン 上前 至

最近、伴走型支援ケアという言葉をよく聞くようになった。これは何か。この言葉を広めるきっかけを作った人物を、恥ずかしながら私は最近知った。それは北九州で牧師としてホームレス支援に30年ほど携わり、3000名ほどの人たちの自立支援に関わる中で、その支援に必要な中心思想を表した言葉であるという。

現在の福祉支援のあり方で最も問題な事は何か。それは最も助けを必要としている人が助けを受けられないということである。つまり困っている時にその困っていることを「伝えられない、言えない」ということである。つまり、今の福祉支援の在り方は「申請主義」であり、自ら申請できないものは、「放っておかれる」という問題である。その典型がホームレスということなのだと言田知志牧師は言う。

2024年、文部科学省の調査では、子供の自殺が過

去最多の529名であったという。そしてその原因の一番が不明であり、5割もあるということである。これは何を意味するか。それは今の社会が子供の問題に関心であり、自殺していく子供には相談できる社会や大人が誰もいないことを示しているということである。

今、私達の社会に求められている事は何か。それは「助けて！」と言った時にそれに応えてくれる「つながり」のある社会であり、「気づき」のある社会であるということである。奥田牧師は言う。「助けて！」と言った時にそれに答えてくれる「つながり」のある町づくりであり、共に伴走してくれる家族機能のある社会を目指していこうではないかと。私達もその一助を担う者でありたいものである。

